

会議録

会 議 の 名 称	第2回あま市生涯学習推進計画策定委員会
開 催 日 時	令和3年10月22日(金) 午前9時30分から
開 催 場 所	あま市甚目寺公民館 2階 研修室
内 容	<p>1 議題</p> <p>(1) 推進計画の素案について</p> <p>① 基本理念</p> <p>② 施策の展開と概要について</p> <p>(2) 策定までのスケジュールについて</p>
資 料	<p>資料1 あま市生涯学習推進計画素案</p> <p>資料2 あま市生涯学習推進計画策定スケジュール</p>
出 席 委 員	<p>岩瀬真寿美委員長、渡辺幸人副委員長</p> <p>石川稔子委員、中田加代子委員、林文博委員、</p> <p>村上千代子委員、吉川孝子委員(50音順)</p>
欠 席 委 員	林初音委員、村田和典委員
事 務 局	<p>(教育委員会)</p> <p>松永裕和教育長、吉川誠教育部長</p> <p>(教育部生涯学習課)</p> <p>鎌倉崇志課長、後藤好和主幹、近藤博主幹、</p> <p>小川泰洋係長、山崎友和主査、駒瀬直輝主任</p>

会議の経過

1 議題

(1) 推進計画の素案について

① 基本理念

資料1に沿って事務局より説明

【質疑応答】

委員：「スパイラル」という言葉に負のイメージを持ってしまいがちだが、新しい感覚で捉えることができればと思う。

委員：前回の資料で「還元する」としていたところを「参画する」にした理由は何か。

事務局：「還元する」よりも「参画する」のほうがより分かりやすいと判断し、変更した。

教育長：「SDGs（持続可能な開発目標）」という言葉で「スパイラル」とうまく組み合わせるとインパクトがあり、あま市が目指す生涯学習の特色が出るのではないか。

事務局：他市町村の計画にもよく出てくる言葉である。検討させていただきたい。

委員長：資料8ページ中の螺旋状に上がっていくイラストを用いることにより、スパイラルをイメージしやすく、それをSDGsや地域への還元につなげていければよいと思う。

副委員長：「豊かな」という言葉は色んなところでよく見かけるが、非常に良いと思う。

委員：資料9ページ中の計画の体系図の目的の「還元」は「参画」ではないか。

事務局：作成時のミスのため、後ほど修正する。逆に、目標のうち「参画」は「還元」とする。

② 施策の展開と概要について

資料1に沿って事務局より説明

【質疑応答】

委員：資料9ページ中の計画の体系図の理念と目的の関係性がよく分からない。

事務局：目的の「推進」、「促進」をより分かりやすくということで、理念を「学び」、「つながり」とした。

委員長：資料15ページ中の「整備の展開」という見出しはなくてよいのではないか。また、同17ページ中の(1)は市民同士の関係性、(2)は専門機関や部署同士の関係性という対比が可能なため、うまく統一して違いを明らかにするとよいのではないか。

委員：資料7ページ中の基本理念の説明のところに「体験を地域に参画し」とあるが、「参画」の意味を考慮すると文章がおかしくなるのではないか。

事務局：確かにその通りである。「参画」を「還元」に変更し、「参画」という言葉をどこかに付け加えたい。

副委員長：基本理念の中にある「参画する」という言葉には、その前の「学び・つながり」を含む意味があると思うので、「還元する」という言葉のほうがスパイラルに結び付くのではないか。

委員長：「還元する」という言葉だと「ポイント還元」のような「返る、戻す」というイメージを持つため、学び・つながりを通してより深いところの計画に当事者として加わっていくということを考えると「参画する」のほうがよいと感じる。しかし、「参画する」という言葉が分かりにくいのであれば、考え直す必要がある。

教育長：「参加する」だとその場にいたりだとか、受動的であるのに対し、「参画する」だと具体的な行動を伴う。「参画する」という言葉の注釈を付け加えると、読み手に意図が伝わると思う。

委員：副題の「豊かな地域社会を目指して」に言及する箇所がなく、浮いてしまっているように感じるが、副題とした理由は何か。

事務局：副題に関しては大きな目標であり、それを実現するために「学び・つながり・参画する」ことが必要である。言葉が逆転して見えるが、このような表現とした。

委員：「学び」というのは市が提供する事業に市民が参加する、それを発表し合うことで色んな他の市民の方と「つながる」、そして得た成果を豊かな地域社会へ反映させ、地域が豊かになったら自身の学びに戻していく、というのがスパイラルだとイメージしていた。「参画する」という言葉のほうが地域社会に参加するだけでなく、自身がそこに積極的に関わっていくことを表現するという点では適しているように思う。「体験を地域に還元し」、「豊かな地域社会作りを参画するきっかけとします」とするとよいのではないか。

教育長：講座等に単発で参加するのみでなく、それを継続していけるような生涯学習を目指すことをこの計画に組み込むことが基本だと思う。文章はそこまで長くせず、注釈を使い定義をしっかりとさせればよい。受け身ではなく、生涯学習を発信できるような存在に市民一人一人がなっていくと、面白いまちづくりができるのではないか。

委員：この基本理念は、誰を対象としているのか。子どもが対象となると、「参画する」や「還元する」という言葉ではイメージできないのでは。

事務局：基本的には、公民館や資料館を利用する人々なので子どもも対象に入る。生涯学習関連のパンフレットにも載せる予定であり、色んな方法・手段で対応できたらと考えている。

委員：「学び・つながり」と「参画する」では言葉の難易度がだいぶ違う。どちらかに難易度を合わせたほうがよいと思う。

委員長：こうして見ると、「学び・つながり」の部分はだいぶ内容も含め固まってきたが、「参画する」の部分は整理が必要になってくる。

教育長：第6章の資料にある過去の講座一覧表について、毎年変化がないのであれば最新の講座の紹介でよいと思う。また、種類別・対象別に分類して分かりやすく提示し、ここで挙げた以外にどういう講座が必要なのかを発見できるようにすると、有効な資料となるのではないか。

アンケートの結果についても、ただ結果を載せるのではなくて、分析を重要視すること、また、記述式の回答は必要な部分をピックアップすることでページ数の削減にもつながり、インパクトがありながらも分かりやすい計画となるのではないか。

委員長：現在開かれている講座がSDGsのどの項目に当てはまるか分かるようにするとよいと思う。

また、アンケート結果についてはグラフ等を見て分析的に捉える人もいるであろうが、そうでない人にとっては「アンケート結果を受け」のところが重要かと思う。

確認であるが、第4章と第5章はあま市としてではなく一般的な内容を書かれるということによろしいか。

事務局：はい。

(2) 策定までのスケジュールについて

資料2に沿って事務局より説明

【質疑応答】

なし

各委員より一言

副委員長：基本理念の中で「学び」という言葉が重複しているのが気になった。

また、コラムの掲載はとても良いと思う。生の声があると冊子自体も柔らかくなり、親しみが持てる。

SDGsも今では小学校でも取り上げられるくらいなので、全面に出していただければと思うし、子ども達にも親しみのある冊子ができればと思う。

委員：基本理念にある「学びのスパイラル」については色々な説明を受けてやっと理解できた。循環して更に高めていくというところを丁寧に説明する必要があると感じる。

また、コラムやアンケートといった生の声が読む方には響くので、そこが充実したらよいと思う。

委員：前回送っていただいた資料からとても分かりやすくなった。言葉選びは難しいであろうが、小さい子どもたちが見て興味を持てるよう思い切ったことをしてもよいと思う。

委員：読み手からするとできる限りシンプルで分かりやすく、世代を超えて手に取ってもらえるものがよい。

委員：あま市の生涯学習講座の内容に毎年変化がないため、その変化があると子ども達から若い方、年配の方まで参加できるのではないかと感じる。
基本理念の副題に関しては、平仮名にすることにより柔らかくなると思う。

委員：若者世代は文章を見た瞬間に拒絶反応を起こしがちである。ツイッターよりもインスタグラムを利用する等、視覚を使うものを追う傾向にあるため、資料1の7ページにあるライフステージの部分も小さくイラストがあるとよいと思う。また、視覚情報として写真やイラストが増えるとよいと思う。

第3回あま市生涯学習推進計画策定委員会

開催日時：令和3年12月17日（金）もしくは令和3年12月22日（水）

午前9時30分から

開催場所：あま市甚目寺公民館 2階 研修室